

平成30年度
田上町教育に関する事務の
点検及び評価報告書

令和元年9月
田上町教育委員会

目 次

1. 学校教育環境の整備			
教育方針の計画的な展開	総合評価：A (100)		P 1
家庭や地域との連携	総合評価：A (85.0)		P 2
教育環境の整備	総合評価：A (90.0)		P 4
2. 教育内容の充実			
学ぶ意欲と確かな学力の向上	総合評価：A (90.0)		P 6
創意工夫を生かした教育活動の充実	総合評価：A (87.5)		P 7
いじめ、不登校に対応した指導体制	総合評価：A (91.6)		P 8
特別支援教育の充実	総合評価：A (100)		P 9
3. 生涯学習の条件整備			
生涯学習推進体制の強化	総合評価：A (87.5)		P 11
指導者・指導体制の充実	総合評価：C (50.0)		P 12
施設整備	総合評価：A (100)		P 13
4. 主体的な学習活動の支援			
学習機会の充実	総合評価：A (86.3)		P 14
主体的な活動への支援	総合評価：A (83.3)		P 17
5. 生涯スポーツの普及			
生涯スポーツの普及	総合評価：A (87.5)		P 19
スポーツ施設の整備	総合評価：A (87.5)		P 20
主体的な活動の促進	総合評価：A (87.5)		P 21
6. 芸術・文化の振興			
芸術文化活動の推進	総合評価：A (100)		P 22
活動組織、指導者の育成	総合評価：B (75.0)		P 22
7. 文化財と伝統芸能の継承			
文化財の保存・活用	総合評価：B (87.5)		P 24
伝統芸能の継承	総合評価：B (75.0)		P 24

評価方法

各事業評価の数値化 a = 100 b = 75 c = 50 d = 25

各項目の評価基準 A = 100～81 B = 80～61 C = 60～41 D = 40 以下

各事業の評価を数値化し、その平均値を上記の評価基準に基づいた総合評価を行った。

(小数点第2位以下切り捨て)

1. 学校教育環境の整備

教育方針の計画的な展開

総合評価：A (100)

施策のねらい

田上町の教育方針の理解推進を図り、教育方針に沿った学校運営、教育活動を展開する

(1) 「田上の12か年教育」の理念継承

評価：a

【事業の概要】

「田上の12か年教育」の理念と取り組みを園・学校・地域が共有し合って、互いの役割を担いながら田上の子どもの教育にあたる。

【成果】

平成22年度から28年度までの中間評価結果から一層の充実に向けて取り組むべき重点事項などをグランドデザインにして幼・小・中の全教職員に配付し、「田上の子は田上で育てる」ために互いが担い合う役割の共有を図った。管理職は園校運営に「田上の12か年教育」の理念を反映させ、教職員の努力と創意の具体的な指針とすることができた。

【課題・意見】

学校の説明努力によって、保護者・地域から一層の共感的な理解と支援をいただけるようにしたい。「田上の12か年教育」に係る保護者、地域からの要望や意見を集約し、反映させたい。

(2) キャリア教育の推進

評価：a

【事業の概要】

田上の子どもが田上で多くの人と関わり、多様な経験を積んでいく活動を通して、「夢に向かう力」、「課題を捉え解決する力」、「自分の良さの可能性を見つけ発揮する力」、「よい人間関係を構築する力」、「田上への愛着心」を育む。

【成果】

町内の商工業者やPTA、学校関係者、教育委員会等で組織する「田上町キャリア教育推進協議会」を設置し、幼・小・中学校及び地域、産業界からの参加を得て、一貫したキャリア教育を展開した。

田上小学校は田上を学ぶ活動「田上学」、「寺子屋授業」、羽生田小学校は「田上の宝」を探る活動、田上中学校は「田上町サイコウ（再考・最高）プロジェクト」、「職場体験学習」、教育委員会は「夏まつりボランティア」など、町を学ぶ活動に取り組んだ。また、県の「小学校キャリア教育モデル事業」を活用し、「田上っ子宣言」の活動用品を作成した。学校・保護者・地域が一体となって応援していく取り組みを活性化するとともに、保護者と地域の方々への周知と理解を図ることができた。

【課題・意見】

児童生徒は、学校での活動に積極的に取り組んでおり定着してきた。今後は、地域において実施される活動の積極的な参加を推進していく。

(3) 学習指導要領の徹底

評価：a

【事業の概要】

学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、その目標を達成できるよう幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組む体制を構築する。

【成果】

次期学習指導要領との円滑な接続と子どもの英語学習嫌いをつくりたくないために、田上版CAN-DOリストの整備並びにALT3名を配置することで、園学校にとって負担の軽い、3歳児から英語を学ぶ「田上の12か年英語教育」を実施できることになった。

【課題・意見】

「英語嫌いをつくりたくない」、「誰でもできる英語指導」、「『自分の英語が伝わった』といった成功体験」などを大切にして、「田上の12か年英語教育」を充実させていく。

家庭や地域との連携

総合評価：A (85.0)

施策のねらい

家庭、地域、学校が連携することにより、町全体で子どもを育てる体制を構築するとともに、「開かれた学校」づくりを目指す

(1) コミュニティ・スクール

評価：a

【事業の概要】

「開かれた学校」から1歩前進し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育て、「地域とともにある学校」を目指す。

【成果】

平成29年4月1日に小中学校3校で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートした。6月に学校地域コーディネーターの欠員が生じ年度内は配置することができなかったが、学校と地域が円滑に接する機会が増えるように努めた。保護者や地域の理解が徐々に深まっている。

【課題・意見】

「地域とともにある学校」を目指し、制度の浸透・地域の理解を深めていくとともに、学校運営協議会委員への情報公開を進めていく必要がある。

(2) アウトメディア・ウィーク事業

評価：a

【事業の概要】

幼稚園年長児から中学校3年生までが在籍する全家庭を対象に、家庭での子どものメディア接触について、家族で考え、家族でルールを作り、家族で取り組むことを促す。

【成果】

町教研養教部会と連携して、年3回実施した。メディア接触に伴う様々な問題や発達段階に応じた具体的な取り組みを保護者に周知した。小学校の保護者80%以上、中学校の保護者の50%からアンケートの回答があり、「家族団欒の時間ができた」、「大人にも

有益である」、「子どもは真剣に取り組んだ」といった肯定的な受け止めが多かった。

【課題・意見】

放任傾向、無関心な保護者への働きかけが課題である。小中学生と保護者へのSNSに係る注意喚起が急務であり、メディア教育を学校と保護者の連携に位置付けたい。

(3) 夢ナビカルテ事業

評価：b

【事業の概要】

県教育委員会が推進する「夢ナビカルテ」を積極的に活用し、保護者が子どもの将来に対する関心を深め、「聞き上手」、「褒め上手」、「引き出し上手」になることを目指す。子どもは自己実現に取り組み、成功体験を積み重ねていくことを目指す。

【成果】

小中学生が学校での学習を夢ナビカルテに整理して自宅に持ち帰り、家族との話し合いに活用した。子ども、保護者、担任の各記述から、家庭内対話の充実はキャリア教育に有効であると評価している。

【課題・意見】

対話が成立しにくい家庭が存在している。授業と家庭内対話を連携させるための資料を作成して、各家庭で活用できるようにしたい。

(4) 田上夏まつり運営サポートスタッフ事業

評価：b

【事業の概要】

小中学生が田上夏まつりに運営サポートスタッフとして参画することで、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成果】

小学生7人、中学生17人の参加申し込みがあった。小学生は販売補助を行い、積極的にお客と触れ合うことができた。中学生は会場の設営準備、イベント運営補助や販売補助を行い、夏まつり実行委員会から高い評価を得た。

【課題・意見】

今年は参加人数が大幅に減った。今後、参加者増が見込めるような活動内容の検討が必要である。

(5) 小中合同あいさつ運動

評価：b

【事業の概要】

小中学生が合同であいさつ運動を展開。あいさつを通じて社会性を育む。

【成果】

中学校の生徒会役員とボランティアが2小学校を訪問し、小中学生合同で玄関前でのあいさつ運動及び中学校玄関前で中学生単独のあいさつ運動を年2回（春と秋）開催した。

【課題・意見】

3校が合同であいさつ運動を展開。小中学生の交流を図りながら、あいさつ運動を実施した。田上町の特色ある取り組みとして継続させていきたい。

施策のねらい

教育環境の整備を行うことで、円滑な学校運営、学びの環境を確保する

(1) スクールバスの運営

評価：a

【事業の概要】

通学距離等の理由により、通学が困難な児童生徒の通学時間の短縮・通学時の安全確保を図る。

【成果】

小中学校にマイクロバスを各2台配置。田上小学校 101 人、羽生田小学校 75 人、田上中学校 38 人が利用した（マイクロバス利用申請者数）。登下校の送迎の他、校外学習での移動、公民館事業やスポーツ少年団の事業においても運行した。また、教員の人権研修や町のイベントにも運行を許可し有効利用を図った。

【課題・成果】

バスリーダーを決めるなどして欠席の連絡を運転手に伝える仕組みづくりを3学校とも確立し、スムーズな運行に務めた。また、曾根地区にバス停留所を設置し、児童生徒の雨風をしのぐ場所を新たに提供した。

(2) 児童クラブの運営

評価：b

【事業の概要】

小学校1年生から6年生を対象に、希望する児童に放課後保育を実施する。

【成果】

開設日数は、田上小学校 289 日（平日 207 日、土曜・長期休業 82 日）、羽生田小学校 289 日（平日 207 日、土曜・長期休業 82 日）。利用者は次表のとおり。

	登録者数	延べ利用者数		
		平日	長期休業・土曜日	計
田上小学校	74 人	4,133 人	1,177 人	5,310 人
羽生田小学校	90 人	5,432 人	1,310 人	6,742 人
合計	164 人	9,565 人	2,487 人	12,052 人

【課題・意見】

平成 30 年度で、土曜・長期休業時に開設していた原ヶ崎交流センターが使用できなくなり、令和元年度からは各学校の児童クラブ教室にて運営を実施している。長期休業中は、特に利用児童が増えるため、全体に目が行き届くようさらに努力していく必要がある。

また、平成 30 年度をもって、2 名のベテラン職員が退職したが、今後、人員の確保と現支援員の資質向上を図る必要がある。

(3) 学校給食費補助事業

評価：a

【事業の概要】

食味のよい地元産コシヒカリを用いた米飯給食の普及定着と、米消費拡大、給食費の保護者負担の軽減に努める。また、地元農家やJAと協力して地元産食材を中心とした献立を展開する。

【成果】

993千円を補助し地元産コシヒカリの米飯給食を提供した。また、地元産の食材を給食に使用できるように納品組合と協力して取り組んだ。

【課題・意見】

田上町での旬の時期をはずれると、生産量や品質等が安定しないことがある。

(4) 学校施設の計画的な改修

評価：a

【事業の概要】

学校施設等の維持管理のための計画策定と改修を行う。

【成果】

グラウンド補助階段設置工事（田上小）507,600円、放送設備改修工事（羽生田小）1,512,000円、特別支援教室空調設備設置工事（田上中）3,456,000円、音楽室空調設備設置工事（田上中）4,017,600円、外壁改修工事（田上中）13,776,480円など修繕を行った。

【課題・意見】

各学校とも築30年以上が経過し老朽化が進んでいる。長期的な展望に立ち、長寿命化計画等を策定していく必要がある。また、近年の夏季における高温に対処するために、空調設備の整備に着手した。

(5) 教育教材等の計画的な整備

評価：b

【事業の成果】

教育用コンピュータをはじめとした教育教材等を計画的に整備し、教育環境の向上を図る。

【成果】

児童用タブレット40台、生徒用ノートPC40台、教職員用PC68台、へのセキュリティ対策として、低価格で評価の高いウィルスソフトを導入した。また、田上中学校ではサッカーゴール368,280円を購入。田上小では運動会に備えて屋外放送用のアンプ302,400円を更新するなど、屋外での教育活動に特化した教育教材を整備した。

【課題・意見】

令和2年度から始まるプログラミング教育やアクティブ・ラーニングに有効利用できるようハードとソフトの整備を図る必要がある。

2.教育内容の充実

学ぶ意欲と確かな学力の向上

総合評価：A (90.0)

施策のねらい

- ・ 学力の向上
- ・ 教職員の指導力の向上

(1) 学校指導主事の配置

評価：a

【事業の概要】

学校運営に係る適切な指導助言、就学指導等にあたる。

【成果】

全国学力・学習状況調査やNRT検査から、小学校と中学校ともに学力向上を確認できる。「自分の授業改善を自分でつくる」をねらいとする町研修と学力向上の資料提供が効果的であった。きめ細かな就学指導で、その子に応じた進学と学校の対応ができた。

【課題・意見】

「志をもって意欲的に学ぶ田上の子を育成するシステム」として田上の12か年教育が機能できるように、点検、評価、改善のサイクルに基づく連携にしていきたい。

(2) 園・校長面談

評価：a

【事業の概要】

各園学校の運営方針とグランドデザインに基づいて学校評価、進捗状況を確認し指導する。

【成果】

各園校長と人事や多忙化などを含めた各園校の課題とその解決のプロセスを確認し合うだけでなく、幼小中連携に係る改善や新学習指導要領への取組状況などについても共有し合えるので有益である。

【課題・意見】

「田上の12か年教育」との関連付けを図っていく必要がある。

(3) 田上町教育研究協議会支援

評価：a

【事業の概要】

幼稚園、小中学校の教職員の連携による「田上の12か年教育」の充実に取り組む研修、活動費用を支援する。

【成果】

一斉研修に「田上の12か年教育」を理解し合う場を設けていただいた。転入職員にも有益である。「主体的・対話的で深い学び」、「外国語活動」、「プログラミング教育」に係る資料を提供し、幼小中の立場で今から準備することなどを理解し合う機会にした。

【課題・意見】

毎年、田上町グランドデザインを更新して、一人一人の「選択と集中」事項を示し、効率的で実効性ある「田上の12か年教育」に改善していく。

(4) N R T 検査

評価：b

【事業の概要】

小中学校において、客観性の高いN R T 検査（標準学力検査／集団基準準拠検査）を実施し、学力定着状況を把握して授業改善に活用する。

【成 果】

小学校1年生から中学校3年生までの実態を把握することができ、その結果を基に各校長と情報を共有し、指導の改善に反映させた。

【課題・意見】

「小学校ではこの段階まで育成し中学校につなぐ」という連携の仕組みを構築し、一層の成果向上を図りたい。

(5) W e b 検査

評価：b

【事業の概要】

県教育委員会のW e b 配信システムに参加して、単元ごとの定着状況をきめ細かく把握し、授業改善に活用する。

【成 果】

毎月の学年別の結果と問題別正答率などを学校別に作成して、各学校に情報提供した。

【課題・意見】

検査結果を学校運営や学習指導の改善につないで、特色ある学習指導に活用できるようにしたい。

創意工夫を生かした教育活動の充実

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 郷土愛を育む教育活動の展開
- ・ 国際化、情報化に対応した教育の推進
- ・ 創意工夫を生かした教育活動の充実

(1) 総合学習事業

評価：b

【事業の概要】

地域の協力を得ながら、各校の総合的な学習の時間における町内での多様な活動を支援する。

【成 果】

学校地域コーディネーターを1名配置し、学校と地域が円滑に接する機会が増えるように努めた。田上小学校の「伝統文化学習」、羽生田小学校の「竹プロジェクト」、田上中学校の「田上町サイコウ（再考・最高）プロジェクト」並びに田上町内での職場体験など、特色ある活動が推進された。

【課題・意見】

活動を通して子どもと町民のつながりを一層高めていくことが必要である。そのために、田上の小中学校が活用できる資料集を整備していく。

(2) 学校図書司書の配置

評価：a

【事業の概要】

各学校図書館の環境整備、調べ学習支援、読み聞かせなど、児童生徒が図書に触れる機会やつながりを向上させる。

【成果】

各学校に毎月約15時間、図書司書を配置し、図書整理や選書作業を行った。

【課題・意見】

月15時間程度の配置では、業務量に限りがあるため、担当の教職員と連携しながら図書環境の整備を進めていく必要がある。また、図書システムのパソコンのOSが令和2年1月にサポートを終了するため、新たなパソコンへ入れ替える必要がある。

(3) ALT配置

評価：a

【事業の概要】

外国語活動並びに英語指導を補助し、国際理解の推進と英語教育の推進を図る。

【成果】

1人のALTを追加し、合計3人のALTを幼小中学校に配置した。新たに追加したALTは、教諭や児童からも非常に高い評価を得ており、町全体として、3歳児から中学校3年生までの子ども達が英語に触れる機会を維持している。

【課題・意見】

次期学習指導要領の実施に向けて、英語教育の充実に向けた準備を進めることが課題となる。

(4) 大学連携事業

評価：b

【事業の概要】

新潟経営大学、新潟薬科大学、新潟中央短期大学と連携し、各大学の教育資源を町の教育に活用する。

【成果】

理科支援員、児童クラブの運営補助、公民館ボランティアスタッフ、幼稚園の学生支援スタッフなど、多様な機会に協力をいただいた。

【課題・意見】

次期学習指導要領の実施に向けて連携をさらに充実していく必要がある。相互に支え合う仕組みづくり、win-winな関係を向上させていく。

いじめ、不登校に対応した指導体制

総合評価：A (91.6)

施策のねらい

- ・ いじめ撲滅の取組
- ・ 人権教育の展開
- ・ 相談員の配置

(1) いじめ見逃しゼロスクール事業

評価：a

【事業の概要】

小中学生が一緒になり「いじめ」について考え行動することにより、いじめ撲滅、人権教育の推進を図る。

【成果】

中学生は小学生の規範に、小学生は中学生を目標にすることができた。保護者や町関係者も加わって、小中学生がSNSの使い方やよい人間関係づくりについて学ぶことができた。「田上町あたたかカルタ」の活用も図られた。

【課題・意見】

保護者や地域の関心を一層高めて、横軸の連携を充実させることが課題である。

(2) 人権教育、同和教育の推進

評価：b

【事業の概要】

町教職員の人権教育への知識や関心を向上させる。

【成果】

町教職員を対象に年2回の人権教育、同和教育に係る研修を開催。差別の実態を身近に感じるための現地研修会の際にスクールバスを運行し支援した。また、公民館事業では、人権をテーマにした講座を2回開催。学習の機会を提供した。

【課題・意見】

人権、同和問題への正しい理解を一層推進し、差別の根絶を目指す必要がある。

(3) 訪問相談員配置

評価：a

【事業の概要】

問題を抱える幼児児童生徒やその保護者を対象に、家庭訪問を行い、相談を通して問題の解決を図る。

【成果】

週3日間、訪問相談員を配置し、家庭訪問・面談72回、ケース会議等50回を実施。小中学校における不登校、虐待、特別支援など、問題を抱える児童生徒や保護者への相談業務、学校への指導、児童相談所との連携等を行った。

【課題・意見】

問題解決までの状況把握や保護者理解、時間を問わずに行われる相談への対応など、限られた勤務時間の中での対応、調整が課題となっている。家庭の抱える課題が多様化、複雑化しているため、関係機関と連携し継続した対応が必要である。

特別支援教育の充実

総合評価：A (100)

施策のねらい

- ・ 就学相談、教育相談の実施
- ・ 介助員を配置し学習支援、生活支援
- ・ 不登校児童生徒の自学級への復帰支援

(1) 教育支援委員会運営事業

評価：a

【事業の概要】

障害のある子どもたちの障害の状態、教育ニーズ、保護者の意見、医学・心理学等専門的見地からの意見等を踏まえ、その子どもに適した就学先を決定していくため、教育相談や就学相談を行う。

【成果】

特別支援コーディネーター1名を幼稚園に配置し、年4回の連絡部会を開催している。4歳児から気になる園児の情報交換、行動観察による子ども理解、保護者との個別相談に取り組んだ。

【課題・意見】

共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の重要性が叫ばれるなか、適切な就学・配慮が行えるよう、幼稚園、小中学校、教育委員会が連携し、早期からの情報共有と継続的な相談支援の体制づくりが必要。特別支援教育や適正な就学についての保護者理解の促進と啓発が必要。

(2) 介助員配置事業

評価：a

【事業の概要】

特別な支援を必要とする児童生徒の身辺介助や安全確保、教育支援等を行う。

【成果】

田上小学校5人、羽生田小学校4人、田上中学校2人、計11人を配置。一人ひとりの状況に応じた学習支援、生活支援を行った。

【課題・意見】

一人ひとりに求められる支援は多様化しており、支援を要する児童生徒の割合は増加傾向にある。

(3) 適応指導教室

評価：a

【事業の概要】

不登校等の児童生徒に対し必要な学習・教育支援を行う。

【成果】

指導員1名を配置し、学習支援を行った。

【課題・意見】

指導員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

3.生涯学習の条件整備

生涯学習推進体制の強化

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 学習情報の提供
- ・ 生涯学習の体制づくり
- ・ 学習成果を生かせるシステム確立

(1) 生涯学習情報の発行事業

評価：a

【事業の概要】

公民館主催事業の情報を掲載した生涯学習情報を発行する。

【成果】

毎月1回、町内全世帯に配布し、生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

記事の載せ方を工夫し、わかりやすく親しみやすい紙面を目指した。また、空きスペースを調整しながら町民からの記事掲載依頼も随時受け付け、各団体活動やイベント情報などの情報発信を積極的に行った。

(2) ホームページによる情報発信

評価：a

【事業の概要】

生涯学習に係る情報を町のホームページに掲載し情報発信する。

【成果】

ホームページ上に生涯学習情報を毎月の発行日に合わせて掲載した。そのほか、駅伝大会や成人式の開催告知、実施報告を電子媒体で行ったことで、事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

有益な情報より見やすく伝えられる記事の掲載を心掛ける。

(3) 地区公民館活動補助事業

評価：b

【事業の概要】

地区公民館が行う生涯学習活動を推進するため、その活動に要する経費の一部を補助し、地区の活性化と生涯学習を支援する。

【成果】

19地区に1,320,000円を補助。子ども会活動事業分では、6地区に124,639円を補助し、生涯学習活動を推進した。

【課題・意見】

申請のなかった地区もあるため、より多くの地区で事業が実施されるよう今後も周知していく必要がある。

(4) 研修参加による職員の資質向上

評価：b

【事業の概要】

生涯学習事業等の企画立案から運営まで行える職員の育成を図るため各種研修会に参加する。

【成果】

公民館研究大会、社会教育研究大会、県スポーツ推進委員大会、同和教育研修会等、各種研修会に参加した。

【課題・意見】

研修会等には参加はしている。その研修会等で得た情報をもとに各事業の改善や新たな事業の企画につなげることが重要。今までの繰り返しだけではなく、新たな企画に取り組む機会を創出していきたい。

指導者・指導体制の充実

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 多様化、高度化する学習要求に対応できる指導体制の確立
- ・ 地域における指導者の発掘と指導者の育成、資質の向上

(1) 生涯学習地区推進員の活用

評価：d

【事業の概要】

各地区に生涯学習推進員を委嘱し、各地区の公民館等を拠点に生涯学習活動への意欲向上、活動援助等を行う。

【成果】

なし

【課題・意見】

29年度に引き続き、30年度も会議や研修を行うタイミングを逸してしまい、事業を実施できなかった。今後体制をもう一度しっかり固め、制度内容の周知や有益な情報提供の場を適切な形で設けたい。

(2) 生涯学習ボランティア養成講座

評価：b

【事業の概要】

生涯学習に係るボランティアを育成するため、企画から運営までのスキルアップ講座を行う。

【成果】

「アイスブレイク講習会」という形で事業を計画し参加者を募ったが、人数が5名に満たなかったため、やむなく開催を見送った。

【課題・意見】

多くの参加者を呼び込み有益な学びの場とするために、今一度事業内容をより工夫し、計画したい。

施策のねらい

- ・ 学習環境の整備

(1) 田上町交流会館の建設

評価：a

【事業の概要】

老朽化した町公民館の代替施設及びまちづくりの拠点整備として、田上町交流会館、田上町地域学習センターを建設する。

【成果】

平成30年1月17日に契約し繰越事業として事業を行った。平成30年度末の出来高は87.9%となっている。

【課題・意見】

工事は順調に進んでいる。オープンを見据えて、交流会館の運用方法や使用料等を決めるため、条例や規則を整備していく必要がある。

(2) 田上町地域学習センターの整備

評価：a

【事業の概要】

田上町交流会館と合わせ生涯学習及びまちづくりの拠点整備を行うため、原ヶ崎交流センターを改修し地域学習センターを整備する。

【成果】

実施設計にあたり、改修面積の精査、パッケージ式消火栓の導入等を行い、事業費の抑制に努めた。

【課題・意見】

令和2年度の完成に向けて工事を進めていく。また、運用方法や管理体制を構築していくため、条例や規則を整備していく必要がある。

4.主体的な学習活動の支援

学習機会の充実

総合評価：A (86.3)

施策のねらい

- ・ 各年齢層における学習ニーズに対応した講座、教室の開催
- ・ 多様化する現代的課題に向けた学習機会の提供
- ・ 郷土の理解を深める各種講座、教室の開催

(1) ゆうゆう教室

評価：a

【事業の概要】

レクリエーション、自然体験、創作活動等を通じ、楽しむことの中から子ども達の自主性や協調性、創造性及び豊かな情操を育む。

【成果】

29年度に引き続き、事前の登録制をやめ小学生全員に案内を配布したが、開催回数9回で延べ参加者数212人が参加した。ほぼ全ての回で新潟経営大学の教授や学生が運営に関わってくれたほか、新潟中央短期大学の学生やスポーツ推進委員、田上中の生徒もスタッフとして事業に巻き込むことができ、より幅広い年齢層の交流が行うことができた。

【課題・意見】

前年度比で開催回数△2回、参加者数△114人、平均△6人/回の減となったが、経営大学や中央短期大学との連携、ぼんぼりを作り椿寿荘に展示するなど多様な活動は評価できる。高学年の参加が減少しているため、活動内容を工夫し参加増を目指したい。

(2) 夏休み妙高青少年研修

評価：b

【事業の概要】

自然体験や集団体験を通して生きる力を育むとともに、地域活動等でリーダーとして活動できる青少年の育成を図る。

【成果】

小・中学生11人、学生スタッフ5人が参加。参加者同士の新たな人間関係を構築し、助け合い、励まし合いながら自分の役割を探し、実行させることができた。

【課題・意見】

田上小学校が学校行事として同じ会場で類似した内容を行っている関係からか、田上小学校からの参加が0人だった。今後は対象の枠(学年)を拡げるなどして、より多くの参加者を呼び込める工夫が必要と思われる。

(3) 子ども夏休み教室

評価：a

【事業の概要】

遊びや伝統文化、生活、自然の中での体験により、心身の健やかな成長をもたらす学習機会を提供する。

【成果】

「寺泊水族館見学」、「ニジマスつかみ取りにチャレンジ!」という2つのプログラムを計画したが、水族館見学は19人、つかみ取りには48人が参加した。

【課題・意見】

水族館見学、つかみ取りといずれも事前に綿密な打ち合わせを行えたので、スムーズな進行、運営ができた。

(4) 大人のためのゼミナール

評価： a

【事業の概要】

主に成人向けの各種教室（講座）を開催し、青年、壮年層の生涯学習参加へのきっかけづくりとする。また、生涯学習指導者の発掘の場とする。

【成果】

トレッキング、甚句太鼓講習会、金融講座、スローフード、からだメンテナンス、ボイストレーニング、パソコン講座、という7つのテーマで計21回開催し、延べ245人が参加した。ボイストレーニング教室はその後、有志により自主サークル化するまでに至った。

【課題・意見】

前年度に好評だったハーブ講座を自主運営化したため、開催回数及び参加者数ともに減となった。より幅広いニーズに対応していくとともにマンネリ化を防ぐため、多様な学習テーマの新規事業に取り組んでいく必要がある。

(5) 生涯学習行政出前講座

評価： b

【事業の概要】

町が重点的に取り組んでいる施策や暮らしに身近なテーマなどを用意し、職員が出向き直接町民に説明、意見交換することにより、町政への関心を深めるとともに、生涯学習意識の啓発と行政の活性化を図る。

【成果】

「認知症について」（保健福祉課）を2回、「熱中症予防、夏バテの食事」（保健福祉課）を1回開催し、延べ33人が参加した。

【課題・意見】

今後も事業を継続していくとともに、より認知度を上げるべく町民への周知を行っていく。

(6) ストレッチ教室

評価： a

【事業の概要】

家庭でも気軽にできる体操を通して、日常生活に運動を取り入れ、健康増進、体力向上を図る。

【成果】

開催回数21回、延べ455人が参加した。健康づくり教室として定着している。

【課題・意見】

今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。

(7) 早朝ハイキング

評価：a

【事業の概要】

朝の清々しい空気を吸いながら護摩堂山を登り、頂上でラジオ体操を行うなど交流を深める。納会では皆勤賞、精勤賞を表彰する。

【成果】

計7回実施し、延べ190人が参加。11月には納会を開催し、皆勤賞16人、精勤賞6人を表彰した。

【課題・意見】

今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。参加者が減少傾向にあるため、創意工夫をしていく必要がある。

(8) 囲碁将棋大会

評価：b

【事業の概要】

囲碁将棋を通じ参加者同士の交流、親睦を深める。

【成果】

囲碁の部15人、将棋の部8人、計23人が参加した（前年度比：△2人）。

【課題・意見】

囲碁、将棋の普及、町民のコミュニケーションの場として機能している。今後も継続していきたい。参加者が減少傾向にあるため、創意工夫をしていく必要がある。

(9) ふるさと歴史講座

評価：b

【事業の概要】

田上町、その他の歴史と文化について学習し、郷土意識を高める。

【成果】

「越佐史に埋め込まれたアラン峠～民俗差別を考える～」と題して1回開催し、14人が参加した。

【課題・意見】

人権同和問題にも触れる内容の濃い事業を開催できた。今後も参加者増を意識してPRにより力を入れ、質の高い事業を複数回行いたい。

(10) 人権講座

評価：b

【事業の概要】

差別問題を始めとする人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚の育成を図る。

【成果】

「子どもの人権について～大人は子どもをどうまもるのか～」と題して1回開催し、10人が参加した。

【課題・意見】

PR不足からか、参加者があまり集まらなかったため、開催曜日や時間の設定も含め、今後より慎重に計画したい。また、事前に講師と打ち合わせはしたものの、参加者より内容が難しすぎるとの声もあったので、可能な限り配慮したい。

(11) 家庭教育セミナー

評価：b

【事業の概要】

子どもの心理や心身の成長に伴う親の役割、関わり等について学ぶ機会を提供し、家庭での教育力の向上を図るとともに、家庭教育の重要性について認識を深める。

【成果】

子育て支援センターを会場に、「子育て香りでリラックス ハーブティーを飲みながらミニハーブ講座・ハロウィンのミニカップ作り」と題し実施した結果、親子21人が参加した。

【課題・意見】

別事業の大人のゼミナールで好評だった「ハーブ」に関わるプログラムを家庭教育に関わる内容と抱き合わせで実施したところ、参加者から大変喜ばれた。スタッフとして保健師からも参加してもらえたことで、より深く家庭教育支援の話題にも触れることができた。

主体的な活動への支援

総合評価：A (83.3)

施策のねらい

- ・ 指導者の養成
- ・ 自主的なグループ活動の支援

(1) 体験活動支援センター

評価：b

【事業の概要】

地区やPTA、個人の生涯学習活動及び体験活動を支援するため、情報の収集と提供を行う。

【成果】

地区行事、学校行事など計5件の相談があった。

【課題・意見】

相談件数が少ない。相談に対応できるよう職員の資質向上を図るとともに、周知活動により知名度を高めていく必要がある。

(2) 各種サークル活動の育成

評価：b

【事業の概要】

公民館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。また、平成29年度から取り組んでいた公民館事業（ボイストレーニング教室）からの新たな自主サークル立上げ支援については、見事自主サークル立上げに成功し、自立して活動していける状態になった。

【課題・意見】

文化協会加盟団体数が減少するとともに、主体的にサークルを結成しようという動きも少なくなっている。

(3) 成人式

評価：a

【事業の概要】

新成人を祝うと同時に、大人としての自覚を高めてもらう。

【成 果】

新成人としての自覚を促すため実行委員会を組織し、主体的に町の事業に関わるように配慮した結果、式典第2部の計画から運営、進行に至るまで新成人主導で行うことができた。シンガーソングライター真季さんのライブを実施するなど、近年にない新しい試みも好評だった。

【課題・意見】

成人式対象者139名に対し、105名が出席した（出席率76%）。実行委員会を組織したことにより、普段関わりの少ない青年層が町事業に関わり主体的に活動できたことは評価できる。

5.生涯スポーツの推進

生涯スポーツの普及

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 誰もが気軽に楽しめるような体制づくり並びにニュースポーツの普及
- ・ スポーツの正しい知識や技術、マナー習得ができる各種教室の開催
- ・ スポーツ振興を促進するための指導者の育成、研修会等の実施

(1) 田上町スポーツ協会との連携と支援

評価：b

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成果】

各種大会の委託について導入から3年目を迎え、ほぼ体制が確立できた。

【課題・意見】

田上町スポーツ協会内部における財政・人材等においてはまだ課題が残っている。今後もスポーツ協会への支援を行うとともに、連携体制を密にしていく必要がある。

(1) 佐藤杯争奪町内駅伝競走大会

評価：a

【事業の概要】

青少年のスポーツ振興を図るため、郷土の生んだマラソン界の権威である佐藤秀三郎氏より優勝杯が贈られた。その争奪戦として、並びに町内の青少年の体力・精神力の向上を目的に開催する。

【成果】

計26チームがエントリーした。町スポーツ協会、スポーツ推進員等の協力もあり、円滑に大会を開催することができた。

【課題・意見】

例年、従事役員数の確保に苦しんでいる。近年は田上町陸上競技協会の紹介で専門知識を持った競技役員を多く派遣していただいているが、町内の有志からもより広くボランティアを募れる体制を検討したい。

(2) 田上町スキー教室

評価：b

【事業の概要】

スキー技術の習得・向上とともに、スキーの楽しさや冬山の自然体験を通じて、町民相互の交流を促進する。

【成果】

計14人が参加。昨年度比で2人増加となったが、依然として参加者が少ない状況であった。

【課題・意見】

スキー人口減少という社会的動向もあるが、参加者が少ない状況が続いている。特に

小・中学生の人数がなかなか増えないため、PR 方法の工夫やより魅力のある事業づくりを意識する意味でも、会場の変更も視野に入れて事業の組み直しを図る必要がある。

(3) スポーツ推進委員主導による生涯スポーツの普及 評価： a

【事業の概要】

スポーツ振興を促進するための指導者育成、研修会等を実施する。

【成果】

計6回の会議を行ったほか、5つの体育行事（スポ少入団式、ソフトボール大会、佐藤杯駅伝、ゆうゆう教室、スキー教室）の運営に関わってもらった。

【課題・意見】

町内での自主事業、自主研修の機会がまだまだ少ない。より積極的に実施できるよう、サポートしたい。

スポーツ施設の整備

総合評価： A (87.5)

施策のねらい

- ・ 各種体育施設の整備充実
- ・ 学校体育施設の有効活用、管理運営体制の確立

(1) 体育施設の維持管理 評価： b

【事業の概要】

各体育施設の適正な維持管理を行う。

【成果】

町民体育館の高圧気中負荷開閉器取替修繕（599,400 円）、羽生田野球場ナイター照明ランプ取替修繕（190,080 円）をはじめ、各施設の維持管理に努めた。

【課題・意見】

施設の老朽化に伴い、日常的な点検や計画的な修繕、管理を行う必要がある。

(2) 学校開放事業 評価： a

【事業の概要】

夜間、休日等に社会体育施設の補完施設として、小中学校の体育施設を一般団体へ貸し出すことで生涯学習、スポーツの推進を図る。

【成果】

小中学校の体育館、中学校の武道場について学校開放を行った。申請が被った際は団体間で調整して利用していた。

【課題・意見】

今後、利用団体が増加した場合、抽選等を検討する必要がある。

施策のねらい

- ・ 田上町スポーツ協会を中心とした各団体の育成強化と競技力向上
- ・ 生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及び多様なニーズへの対応
- ・ スポーツに対する認識の高揚

(2) 全国大会出場者への褒賞制度

評価：a

【事業の概要】

スポーツ・文化を通じて、町の代表若しくは団体の代表として各種競技会に参加、または審査会、発表会等で優秀な成績を収めた町民を褒賞する。

【成 果】

様々な競技大会、コンクールに出場した町民延べ16人に、160,000円を授与した。

【課題・意見】

制度の周知を行い、申請忘れを防いでいく必要がある。

(3) 田上町スポーツ協会との連携と支援（再掲）

評価：b

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成 果】

各種大会の委託について導入から3年目を迎え、ほぼ体制が確立できた。

【課題・意見】

田上町スポーツ協会内部における財政・人材等においてはまだ課題が残っている。今後もスポーツ協会への支援を行うとともに、連携体制を密にしていく必要がある。

6.芸術・文化の振興

芸術文化活動の推進

総合評価：A (100)

施策のねらい

- ・ 各種団体などに日頃の活動成果を発表する機会の提供
- ・ 優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供
- ・ 各種開催情報の提供、活動への参加促進

(1) 文化祭の開催

評価：a

【事業の概要】

美術及び芸能を愛好する町民の創作を発表する場であると同時に、日常生活の中で芸術文化に親しむ心を養う。

【成果】

- ・ 展示の部：作品数380点、出展者数296人、来場者数724人
- ・ 芸能の部：出演団体17団体(157人)、来場者数404人

【課題・意見】

文化協会自体の加入団体が減少しているため、協会からの作品数が減少傾向にある。また、次年度から会場を田上町交流会館に移す予定であるため、レイアウトや運営方法についてもじっくり検討する必要がある。

(2) ロビーコンサート等の音楽振興

評価：a

【事業の概要】

発表の機会をつくるとともに、芸術文化を鑑賞する機会を提供する。

【成果】

役場1階ロビーにてピアノ、声楽等のコンサートを年間計4回開催した。(出演者数延べ14人)

【課題・意見】

田上町交流会館を有効活用し、新しい音楽イベントや関係事業の開催について検討したい。

活動組織、指導者の育成

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化協会など各種団体との連携、協力体制の強化
- ・ 各種団体などの活動促進

(1) 芸術、文化に関する指導者、活動組織の育成

評価：b

【事業の概要】

公民館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成 果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じたほか、公民館事業（ボイストレーニング教室）から新たな自主サークル立上げに向けた支援にも取り組んだ。

【課題・意見】

文化協会加盟団体数が減少するとともに、主体的にサークルを結成しようという動きも少なくなっている。

（２） 文化協会への支援

評価： b

【事業の概要】

文化協会との連携、協力体制の強化。

【成 果】

文化協会の活動費の一部 189,864 円を補助した。また、文化協会だよりを連携して編集、発行した。

【課題・意見】

文化協会加盟団体が減少傾向となっている。団体の結成や支援をしていく必要がある。

7.文化財と伝統芸能の継承

文化財の保存・活用

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発
- ・ 指定文化財所有者の協力による保存

(1) 指定文化財の管理助成

評価：a

【事業の概要】

指定文化財所有者の保存に対して、その費用の一部を助成する。

【成果】

国指定文化財：1件 10,000円

県指定文化財：1件 10,000円

町指定文化財：4件 20,000円

名木管理助成：7件 35,000円

また、上記助成金のほか、名木看板（「東龍寺の杉」、「薬師の桜」）の改修工事を行った。

【課題・意見】

指定文化財の看板が老朽化しており計画的な更新が必要。

(2) 文化財の一般公開

評価：b

【事業の概要】

文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発。

【成果】

行屋崎遺跡出土品を役場ロビーに展示するとともに、県指定文化財の薬師如来坐像を文化祭で展示した。

【課題・意見】

町民への啓発につながるよう展示の機会を確保、積極的な啓発が必要である。

伝統芸能の継承

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場、PR活動の促進、後継者の育成支援

(1) 伝統芸能の保存のための支援と公開

評価：b

【事業の概要】

各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場の確保や後継者の育成支援を行う。

【成果】

田上甚句太鼓保存会により、講習会の開催や小学校からの依頼に応える形での指導を

実施した。その他の伝統芸能については、地区単位で活動を行っていたようだが、連携や支援は充分に行えなかった。

【課題・意見】

各団体の活動状況の把握や映像による伝統芸能の保存が必要である。

(2) 小学校での伝統文化継承

評価：b

【事業の概要】

伝統芸能の伝承のため小学校と連携した伝承活動を展開する。

【成果】

田上甚句については、小学校でのクラブ活動指導、運動会前の講習会、夏まつりでの小学生の発表支援を行った。

【課題・意見】

田上甚句については一定の取り組みが確保できているが、その他の伝統芸能（五社神社や川前地区の神楽舞）とはまだ連携構築が充分にできておらず、今後町としての支援も含め、検討する必要がある。